

ボランティアを通して

人生を楽しむための講座を開設

高齢者ボランティア活動相談講座

出雲市総合ボランティアセンターは、ボランティアの情報収集・発信の場であるとともに交流の場です。運営はボランティア自身が行っています。それぞれの活動を尊重するという観点から、基本的にセンターが主催をして事業を行うことはありませんが、この度、文部科学省から委嘱を受けて、ボランティア活動に参加意欲のある中・高齢の方々に応援する講座を開催しました。その様子をお知らせします。



出雲市総合ボランティアセンター
センター長 川本眞信

今回の講座は、社会の第一線を退かれた方々や将来退いたときにどういう生き方をすればよいかを考えている方々に、これからの人生を充実した楽しいものとしていただくための手助けができればと思い企画したものです。

今日はその入口として、高齢の方々の智慧や技術を掘り起こし、次代につなぐことを目的として仕事をされている石原奈津子さんに講演をお願いしました。みなさんのこれからの生き方に何かのヒントとなればと考えています。

講演後、今出雲市総合ボランティアセンターを拠点として活動している九つのグループ活動を紹介します。皆さんに興味のある活動にチャレンジしていただこうと思っています。これから二週間の間に、参加したいグループの活動日にあわせ、どうぞフリー体験をしてみてください。

ボランティア活動の始まりは、「好きであること」からとっています。皆さんが好きなものを見つけ、これからの人生に生かしてみてくださいることを祈っています。

講演 あなたの趣味や経験を生かして 人生をエンジョイしませんか？



企画会社「茄子の花」社長
石原 奈津子さん

1972年、島根県松江市に生まれる。16才で渡米。ホームステイをしながら、アメリカのハイスクールに通い、3年半を過ごす。留学先で出会った働く女性たちに影響を受け、起業を夢見る。帰国後、地元で大学で日本文化や民族学を学ぶ。1999年4月、有限会社『茄子の花』を設立。自分のアイデンティティを追求しながら、充実した日々を送っている。



自分にとってのボランティアについて考えながら講演を聞く受講生の皆さん

高校一年生の単身渡米が今の自分に大きく影響

私は、中学生のころ、何か物足りない気持ちで学校生活を送っていました。そんなとき『葉っぱのフレディ』の著者であるレオ・バスキアリの書いた「自分らしさを愛せませんか」という本に出会い、「レオ・バスキアリヤに会いたい。彼に会ったら自分にあつた世界が見つかるはずだ」という強い思いを抱きはじめました。そして、相談をした母の「奈津子が自分で決めたことならやってみよう」との言葉に後押しされ、高校一年のとき自主退学の道を選び、「笑顔」を世界の共通語と信じて単身渡米。三年半のアメリカ生活が始まりました。

慣れない土地で、まず学校のカウンセラーに相談したのは、「自分にできること」で何かボランティアがしたい」ということでした。かつて、国立松江療養所にボランティアとして通い、そこで出会った筋ジストロフィーの方と「生きるとはどういうことか」を真剣に語り合えた経験をしたからです。

カウンセラーに片言の英語で思いを告げ、何とか老人ホームで日系一世のおばあさんの話し相手をするというボランティアが実現しました。ここでは、日本の文化や歌に触れ、私の心が癒されることになりました。アメリカの老人ホームは日本と違い、とてもきれいです。高級ホテルのようなホームに通ううちに、日本に帰ったらこんな施設を作りたいと思うようになりました。そのことが今の私の仕事に大きく影響しています。

愛情第一に祖母を介護した母の姿に学ぶ

日本に帰ってからのこと。私の母は愛情が一番の良薬」という言葉を信条としていて、介護が必要となった母親（祖母）を引き取り、お世話をすることにしました。そのことは、私の家族にとつてとてもいい経験となりました。祖母は少し痴呆がありましたが、「おばあちゃんはずべてわかってる」という構えで、私たち家族は普通に接しました。そのころ、よく姉の子どもが周りの大人たちと同じように祖母に接する姿を目にし、子どもは大人のこととよく見ているものだと感じました。核家族が進み、かつてほど家庭でさまざまなことが経験できなくなっている今、それを地域や社会が担っていく必要があると強く感じます。

親の意見と茄子の花は

千に一つもあだがない会社を起す準備に追われている最中、母に病が見つかり、家族の祈りもむなしく、母は五十六歳の生涯を閉じました。しばらくはそのショックから立ち直れないでいた私でしたが、多くの方々の支えで、やっと会社の創業にこぎつけることができたのは、二

年前のことです。

会社『茄子の花』は、多くの人たちの知恵や経験を社会にどう生かしていくかを基本理念としています。会社名は「親の意見と茄子の花は、千に一つもあだがない」と、あるお年寄りから教わったことわざから名づけました。衣・食・住・教育の四つをキーワードに事業を行っていません。会員中心にいろいろな講座を行い、今の時代、人々は何を求め、何を感じ、何ができるのかを探りながら、今後の事業展開を図っていきたくと考えています。いずれは、高齢者マンションと託児所、お店や映画館・郵便局などさまざまな機能を備えた複合施設を作りたいという夢もあります。

社会に役立つ喜び

これまで、私は「邂逅」という言葉を大事に人生を歩んできました。多くの出会いがあり、今の私があります。出

会いを大切にバランスのよい人間関係を保っていきたくと思っています。茄子の花のようにうまく実を結ぶためにも、私が今やっていることは、会社を母体とした企業活動で、高齢者の方々の智慧を活用するといふものですが、智慧を提供してもらうとき、その方々は代償を求めず、自分が社会の役に立つことに喜びを見出されています。それは、まさしくボランティア精神ではないでしょうか。社会の役に立つ喜び。今日お集まりの皆さんにも、ぜひ経験していただきたいと思ひます。

経験してほしい

社会に役立つ喜び

これまで、私は「邂逅」という言葉を大事に人生を歩んできました。多くの出会いがあり、今の私があります。出